

まちのキラリびと



地域の皆さんの期待に添えるように、地域医療の充実、発展に努めていきます

(一社) 敦賀市医師会 会長
神谷 敬一郎 さん

行政や関係団体と協力して、円滑に医療サービスを提供する

敦賀市医師会は、明治21年の敦賀医師組合の発足以来、組織改編や改称を経て、現在に至ります。

活動内容としては多岐にわたり、地域の予防接種・健診、災害救急医療活動、学校保健、感染症対策、在宅医療・在宅介護、産業保健などに積極的に取り組んでいます。

また、休日急患センターの運営や外科系当番医制度の実施をしています。

さらに、病院と診療所との間で患者の紹介・逆紹介の促進、開放型病床の利用などの病診連携を図り、症例報告や意見交換会も行い、医療技術の向上にも努めています。

現在、変異株を中心に新型コロナウイルススが猛威を振るい、感染リスクや重症化のリスクが非常に高まっています。

「自身の行動が周りの人に感染させるリスクにつながる」ということを念頭においた行動や感染対策をお願いします。

そして、ワクチン接種は、感染症の発症、重症化を予防する効果があります。若い人たちも、ぜひ接種を受けられることをお勧めします。

地域の医療環境は、社会情勢により変化します。今後も、日々の診療で得た患者さんの声をより良い地域医療に活かすため努力してまいります。



↑ 新型コロナワクチン集団接種会場における問診風景 (R3年度)
↖ 医師会と公的病院との意見交換会 (R1年度)
← 総合防災訓練における医療救護講演会 (H28年度)

まちの宝を発見！ つるが歴史遺産



代々大切に保存してきた鐘をぜひご覧ください

案内人 宮司 宮本 民雄さん
宮本 學さん

国宝 朝鮮鐘

基本情報

種別: 国宝(昭和27年11月23日指定)
铸造: 新羅時代(833年)
所在地: 常宮神社境内



(写真左)
吊り手部分の龍のデザイン



朝鮮半島の歴史を現在に伝える鐘

常宮神社社務所の横にある収蔵庫の中を、皆さんはご覧になったことがあるでしょうか。中には833年に朝鮮半島で造られ、1597年に大谷吉継が当神社へ奉納したと伝わる国宝朝鮮鐘が安置されています。奉納から400年以上が経過し、だんだんと錆が目立つようになってきたため、今年の春に奉納以来の長い歴史で初めて神社の外へ出され、修理が行われています。

朝鮮鐘は、日本の梵鐘とは異なる特徴を持っています。1つは鐘の吊り手部分が珠をくわえた龍のデザインになっていること、2つ目は鐘の頭の部分に旗挿し(音筒)という円筒がついている点、3つ目は鐘の胴体に描かれた唐草模様や天人のデザインです。

当神社の鐘も含め新羅時代に铸造された朝鮮鐘は、世界で11口だけが現存しています。銘文にはこの鐘が造られた「青州蓮池寺」の文字と、鐘の铸造に蓮池寺の古い鐘を溶かして用いたことや铸造に携わった人物についての記録が刻まれています。かつては境内の鐘楼に吊って保管していましたが、今は収蔵庫の中に置いて近くで見学できるようにしています。

今年、常宮神社では朝鮮鐘本体と収蔵庫の修理を同時に進めていて、鐘は奈良県で修理され、来年中に新しくなった収蔵庫に戻ってくる予定です。

※朝鮮鐘の見学には拝観料200円がかかります。

広報担当者のつばき

9月号でご紹介しました謎解きゲーム(時空列車への招待状)に家族で挑戦しました。程よい難易度で、謎解きを進めていくと「こんなところがあったんだ」という新たな発見もありました。10月までの土日祝で実施していますので、皆さんも是非参加してみてください。暑さ対策と虫よけ対策も忘れず！(K)

広報担当3年目にして、初めて花火の撮影をしました。今年の花火はサプライズで行われたため、10分間ほどの短い時間でしたが、居合わせた人たちからは大きな拍手が送られました。一方私は、感動する余裕もなくシャッターを切り続け、慣れたころに終わってしまいました。(M)